

# 1年C組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 箏に親しむ  
教材名 さくら さくら（日本古謡）

## 2 題材について

### 《学習指導要領とのかかわり》

- A 表現 (2) ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること  
イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること  
ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること
- [共通事項] ア 音色、リズム、旋律  
イ 間、音階、調

### (1) 題材観

本題材では、「さくら さくら」を教材として用い、箏の基本的な奏法を習得するとともに、その奏法が生み出す音色や響きの特徴を感じ取った上で、それらを生かして箏を演奏することをねらいとしている。

近年、日本音楽を取り上げる機会は増えつつあるが、我が国の伝統的な音楽の良さに充分気付くまでには至っていないのが現状である。そこで、小学校6年間および中学校3年間の義務教育9年間のカリキュラムを編成するにあたり、題材、領域の系統性や指導の連続性、発展性等を考慮しながら、日本の伝統的な音楽・郷土の音楽を含む世界の諸民族の音楽を全学年にわたって計画的に取り入れ、ねらいの定着及び深化をさせていくことが必要であると考えられる。

「さくら さくら」は、小学校4年生の歌唱共通教材である。小学校の学習指導要領「第2 各学年の目標及び内容」〔第3学年及び第4学年〕「2内容」「A表現(1)イ」では、「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」とあり、「日本の音楽に親しむ」とし、「うさぎ」や「こきりこ」「さくら さくら」で、歌い方や拍の流れに注目して民謡を鑑賞し、古くから伝わる我が国の音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取る学習をしている。また、小学校学習指導要領「第3 指導計画の作成および内容の取り扱い」では、第5学年および第6学年で取り上げる楽器について、「電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。」と示されており、日本と世界の音楽に親しむとして、「春の海」「越天楽今様」を共通教材として、我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しんでいく学習をしている。

中学校の学習指導要領「第1 目標」では、「音楽文化についての理解を深め」という一文があ

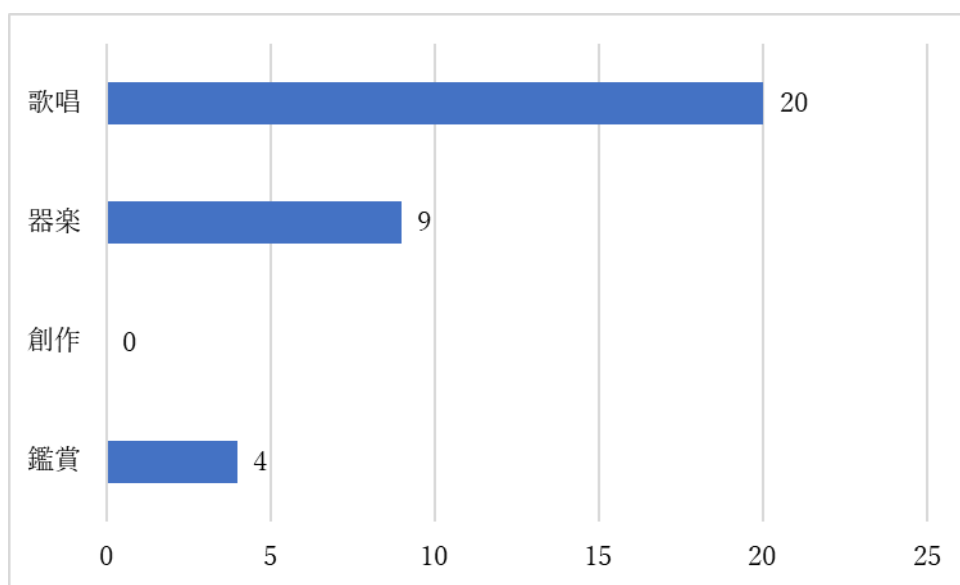
る。箏は、比較的容易に音を奏でることができ、西洋の楽器とは違った音色や表現があることを知覚しやすい。我が国の伝統的な音楽に関する学習に取り組むのは、中学校に入学してから初めてとなる。箏の音色の多様さ、音域の広さ、表現の多彩さなどによって、独自の表現力をもち、楽器演奏への尽きることのない興味が、意欲を高めると考える。箏の音色の美しさを感じ取り、様々な奏法を学んで箏を演奏できるようになった上で、重なり合う音色や独特の余韻などを味わいながらアンサンブルをする能力を育てたい。

生徒が自分から表現したいという思いや意図をもち、より良い表現を見出していくことが、今後の歌唱表現や創作活動につながっていくことを期待して、本題材を設定した。

## (2) 生徒の実態 (1年C組 男子15名 女子18名 計33名)

本学級は、支援を必要とする生徒が複数名いるものの、音楽活動および学級活動において、生徒同士がそれぞれの良さを尊重し、不足する部分は補い合いながら意欲的に活動している。歌唱活動において、入学当初は苦手意識や恥ずかしさがあった生徒も、合唱コンクールの練習を通して、歌うことに対しての抵抗感が少なくなり、自己を解放できる生徒が増え、意欲的に取り組むようになってきた。

### 1 音楽の学習活動で好きなことは何ですか。(歌唱・器楽・創作・鑑賞) また、その理由は何ですか?



#### 歌唱

- ・歌うことが好きだから 8
- ・声を出すことが好きだから
- ・皆と歌うのが楽しいから 5
- ・皆が一つにまとまった気がするから
- ・皆で心をついにできるから
- ・歌うと気持ちが良くなる
- ・人の心を動かすことができるから
- ・団結力をつけたいから
- ・心が安らかになるから

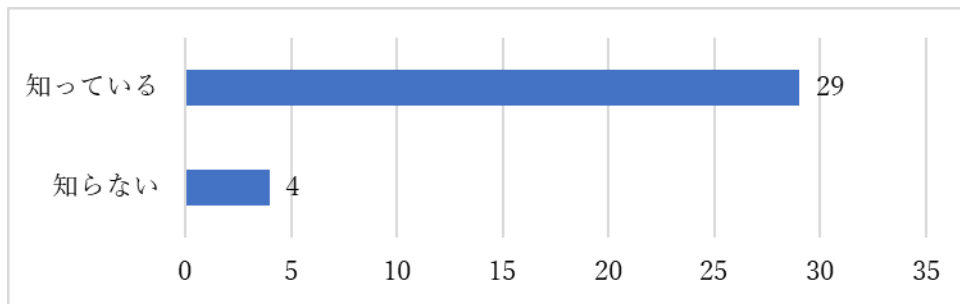
**器楽**

- ・音がおもしろいから
- ・自分の声ではない良い音がするから
- ・楽器を使うことが好きだから
- ・楽器の演奏が楽しいから
- ・合奏が好きだから
- ・普段体験できないことができるから 2
- ・滅多にさわったりできない楽器で、合奏できたら楽しいから

**鑑賞**

- ・プロが演奏しているから好き
- ・気持ちが落ち着くから
- ・曲を聴くのが好きだから
- ・音楽を聴くのは気持ちが良いから

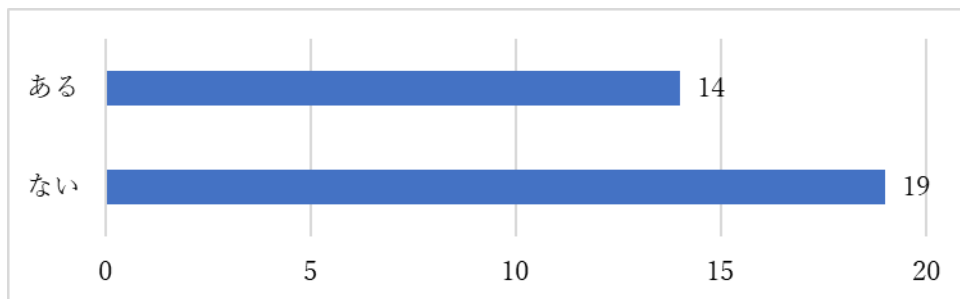
2. 日本の伝統音楽について、知っていますか？（複数回答可）



**知っている**

- ・お祭りの音楽
- ・ソーラン節
- ・J-POP 2

3. 日本の伝統音楽について興味はありますか？



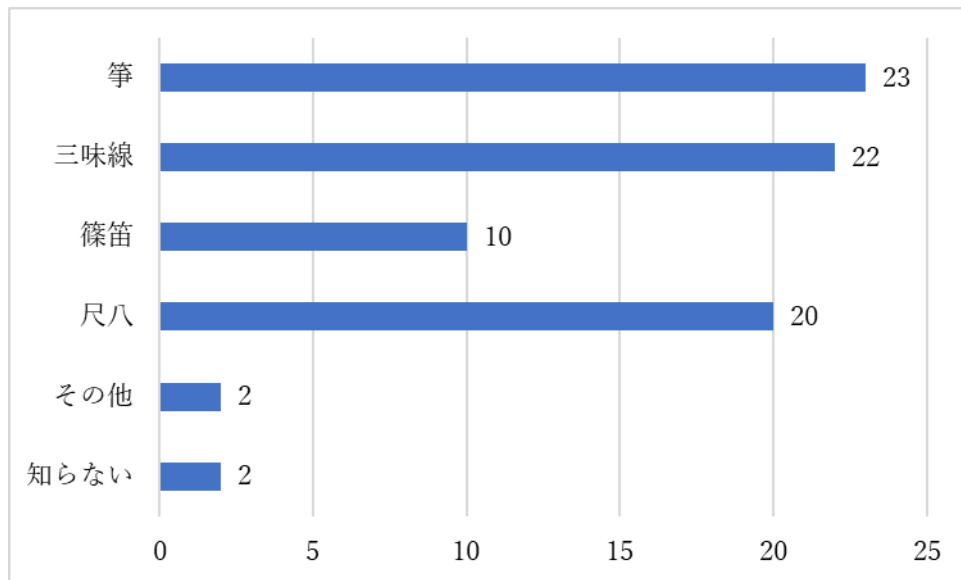
**ある**

- ・日本の伝統を知ってみたい
- ・自分の知らないことを知ることができるから
- ・すごいから
- ・歴史に関係してるから
- ・カッコいいから
- ・伝統的なものが楽しそうなのと、よく知らないからもっと知りたい
- ・少ししか知らないから
- ・良い音だから
- ・いろいろな楽器を知ることができるから
- ・日本の曲だから
- ・古くからの道筋に興味があるから

**ない**

- ・あまり知らないから 2
- ・他の音楽の方が好きだから
- ・音楽を聴くのは好きだけれど、昔の音楽まで知ろうとは思わない
- ・調べたことがないから
- ・あまり気にしたことがない 2
- ・興味がないから 2

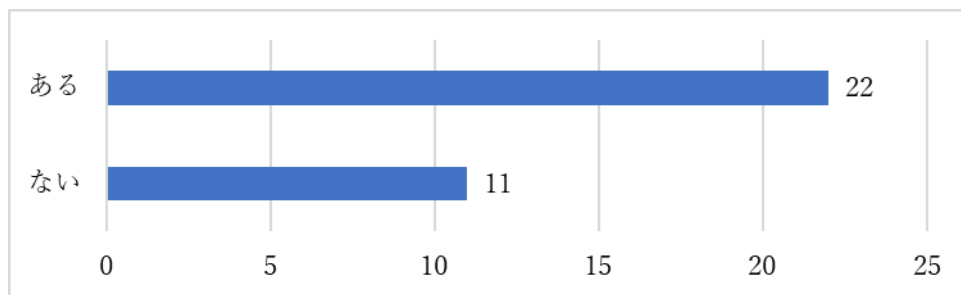
4. 日本の伝統楽器で知っているものはありますか？（複数回答可）



**その他**

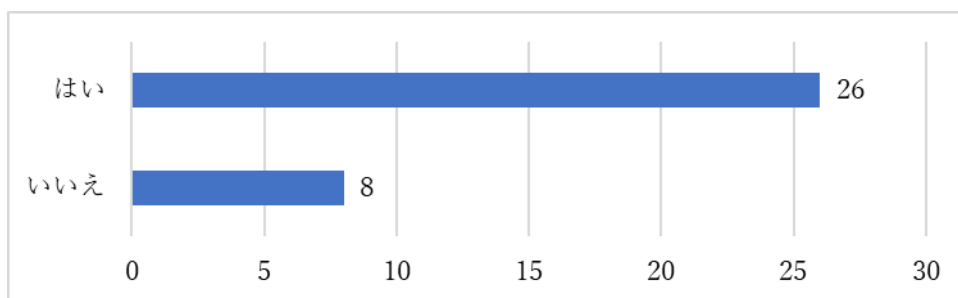
- ・太鼓 2

5. 和楽器を演奏したことがありますか？



- ある**
- ・箏 15 「触れただけ」「曲はやっていない」「花は咲く」
  - ・太鼓 7 「祭りの時」
  - ・三線 「きらきら星」
  - ・エレクトーン
  - ・リコーダー 2 「もののけ姫」
  - ・フルート
  - ・鉄琴

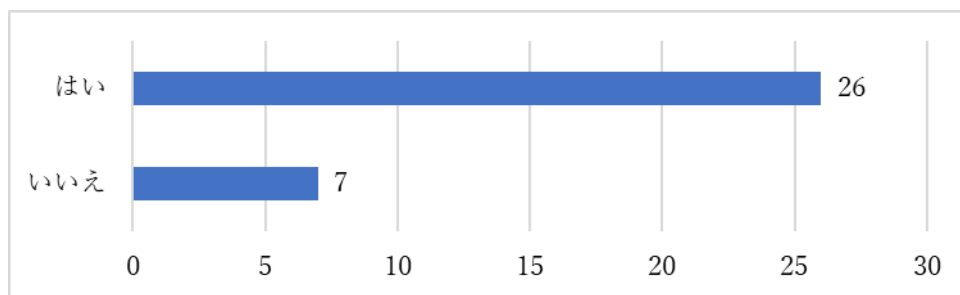
6. 和楽器を演奏してみたいと思いますか？



- はい**
- ・一度も演奏したことがないから 3
  - ・滅多に演奏できないから 2
  - ・楽しそうだから 6
  - ・音がきれいだから 5
  - ・おもしろそうだから
  - ・演奏が好きだから
  - ・難しそうだから、やりがいがありそう
  - ・少し興味があるから
  - ・演奏してみたいから 3
  - ・自分ができないことをやってみたいから

- いいえ**
- ・実際にやってみるのは難しそうだから 2
  - ・そこまで知ろうとは思わないから
  - ・音楽があまり好きではないから
  - ・あまり関心がないから

7. 授業で箏を弾くことができるとしたら、演奏してみたいですか？



はい

- ・一度は演奏（経験）してみたいから 3
- ・きれいな音だから 2
- ・楽しそうだから 2
- ・「かぐや姫」などで観て、演奏してみたいと思ったから
- ・良い音がするから
- ・おもしろそうだから 4
- ・好きな漫画に、箏のシーンがあったから
- ・あまり弾くことがないから 2
- ・皆とやってみたいから
- ・いろいろな楽器にさわりたいから
- ・前に弾いて楽しかったから
- ・音が好きだから
- ・何か一つでも演奏できる楽器をつくりたいから
- ・小学校であまり弾けなかったから 2
- ・小学校の時に難しかったから
- ・難しいことをやってみたいから
- ・演奏が好きだから
- ・弾いたことがないから
- ・弾けるようになって、いろいろな曲を演奏したいから

いいえ

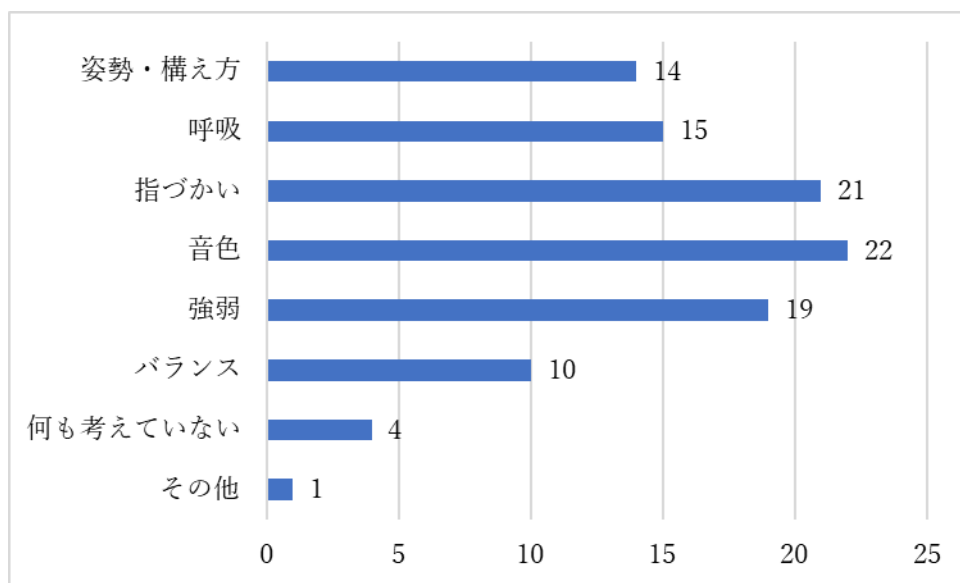
- ・指が痛そうだから
- ・あまり関心がないから
- ・弾き方がわからないから
- ・やりたくないから
- ・難しそうだから

8. あなたは、箏や箏の曲にどのような印象を持っていますか？

- ・落ち着いたような癒し系の印象
- ・日本の文化
- ・和風 7
- ・歴史的
- ・すごい音
- ・おもしろそう
- ・楽しそう
- ・きれいな音 7
- ・美しい 2
- ・難しそう
- ・聴いたことがないからわからない
- ・知らない、わからない 3
- ・不思議で少ししか見ない、貴重な印象
- ・和の音楽
- ・昔の曲 2
- ・良い印象
- ・カッコいい
- ・おとなしい 2
- ・静か
- ・心に響く

9. 楽器を演奏する時に、気をつけていることは何ですか？

- ア 姿勢・構え方      イ 呼吸      ウ 指づかい      エ 音色      オ 強弱  
 カ バランス      キ 何も考えていない      ク その他



その他

- ・叩く位置

## 〈考察〉

中学校入学後、歌唱表現に重点を置いて活動してきたため、歌唱を好む生徒が多い。

本校は、2校の小学校からの進学が多い。音楽専科の存在の有無も音楽活動の好みや経験を左右していることも大きいと言えるであろう。小学校での音楽の学習経験の差異が、学習内容の定着にも影響している。日本の伝統音楽について、「知っている」と答えた生徒が多いものの、実際には正しい知識とは言えない回答が出ており、小学校時の学習の記憶も曖昧であると思われる。日本の伝統音楽への興味や、演奏の体験には、「興味がない」「難しそう」と回答する生徒がいるが、箏に対しては「興味がある」「演奏してみたい」と回答した生徒が比較的多くいた。「興味がない」「難しそう」と回答した生徒の多くは、触れた経験がなく、「弾き方がわからない」「良さを知らない」ものと推察される。このことから、本題材では、小学校4年生で学習した「さくらさくら」（歌唱共通教材）を教材とし、初めて楽器に触れる生徒でも比較的に取り組みやすい箏を用いた演奏に取り組むこととした。また、個々のレベルに応じ、箏の演奏ができるよう、合奏を通して楽しく進めたいと考える。そして、音色や響きと奏法との関わりを味わうことによって、今後の音楽学習への主体的なかかわりを期待したい。

### （3）指導観

「さくら さくら」は、小学校4年の歌唱教材である。原曲は箏曲であり、幕末の伝聞によると子ども用の箏曲の手ほどき曲であったと言われている。江戸時代につけられた曲名は「咲いた桜」であり、箏曲の基調である陰旋法の旋律で構成され、伝承音楽であった。現在では、作者不明の日本古謡と表記される場合が多い。箏曲用の楽譜は五線譜ではなく数字で書かれているために、読譜が苦手な児童・生徒達にとっても取り組みやすいと考える。旋律が13本の弦の真ん中に当たる「七」から始まり、基本的に隣の弦への移動で演奏できるなど、初心者が取り組みやすい特徴を持っている。箏には様々な奏法がある。

第一次では、小学校での学習経験を生かし、「さくら さくら」の曲想にふさわしい表現をするための音色を工夫し、曲全体の流れを感じ取らせながら、基礎的な奏法を身に付けさせる。箏の基礎的な奏法に目を向け、身体の姿勢や座る位置、弦を弾く位置や爪の角度などによって、音色が異なってくることに気付かせ、箏の音色の美しさに関心を持たせたい。また、平調子の特徴を感じ取らせるために、他調子との比較聴取を行う。第一次の終わりには、第二次でのアンサンブルの取組に向けて、副旋律や伴奏を練習し、様々な奏法による音色の違いに関心を持たせる。

第二次では、いろいろな奏法による音色の違いを感じ取るとともに、互いのパートの音を聴き合いながらアンサンブルをする。和楽器での合奏は、呼吸の合わせ方や間の取り方など、日本の伝統音楽の独特のコミュニケーションがある。今回は「さくら さくら」の曲想を味わいながら3つのパートを一面の箏で演奏できるように編曲された教材を使用する。かけ合いやユニゾン、跳躍のある音などをなめらかに演奏することで、流れるような旋律の特徴を生かした演奏を目指す。箏によるアンサンブルを通して、自分たちで息を合わせて演奏したり、間のとらえ方などを体験したりすることがねらいである。そうすることで、日本の伝統音楽をより深く味わうことができるであろう。

我が国で受け継がれてきた伝統的な歌唱や和楽器における基本的な奏法を身に付けることは、知識のみだけでなく直接体験させることで、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度を育成するという、国際理解の観点にもつながると考える。

## 3 題材の目標

旋律や響きの特徴を生かした音楽表現を工夫し合奏しよう



#### 4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①楽器の特徴（楽器の構造や奏法、その楽器固有の音色や響き、よさなど）に関心をもち、基礎的な奏法（楽器の初歩的な演奏方法など）で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（音色・リズム・旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、楽器の特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①楽器の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能（奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて演奏している。
②声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）や全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	②音楽を形づくっている要素（音色・リズム・旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。	②声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能（奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて演奏している。

#### 5 研究の視点について

##### 【視点1】9年間を見通した学び方の共有

本題材では、「さくら さくら」の曲想や箏の特徴に関心をもち、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること、箏の音色を味わいながら音楽表現することをねらいとしている。

小学校では、4年時に日本の音楽の雰囲気を感じ取りながら演奏することをねらいとして、「さくら さくら」を歌唱する。その際、日本の伝統的な楽器として、箏の音色について初めて触れる。5年時では、「春の海」の鑑賞において、箏の音色をよりよく味わうために箏を体験的に演奏する。

これらをふまえ、中学校では「さくら さくら」の曲想にふさわしい表現をするための音色を工夫し、曲全体の流れを感じ取らせながら、基礎的な奏法を身に付けさせる。さらに、重なり合う音色や独特の余韻などを味わいながらアンサンブルをし、息の合わせ方や間のとらえ方など、日本の伝統音楽独特のコミュニケーションを体験する。このように、小学校で身に付けた知識の核となる音楽を形づくっている要素や技能を繰り返し学習することで、日本の伝統音楽への理解が深まり、そのことを生徒自身も実感するものとする。

6 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
1 次	1	ねらい 箏の音色に関心をもち、基礎的な奏法を身に付け、「さくら さくら」を演奏する ○「さくら さくら」を歌唱し、旋律の特徴をつかむ ・小学校で学習したことを思い出しながら、リズムや旋律の特徴で気付いたことや感じ取ったことを共有する。 ○箏の表現の特徴を聴き取る ・箏の音色や響きを味わいながら「さくら さくら」を鑑賞する。 ・鑑賞から感じたことをワークシートに記入し、発表する。 ・学級全体で話し合い、気付きを共有する。 ・箏について知る。 ○箏の基礎的な奏法を学ぶ。 ・箏の取り扱いについて知る。 ・楽譜の読み方、爪のつけ方、身体の姿勢や座る位置、両手の置き方、弦の弾き方など、箏らしい音が出る弾き方について知る。 ・「さくら さくら」の主旋律を演奏する。	〔関心・意欲・態度①〕 楽器の特徴（楽器の構造や奏法、その楽器固有の音色や響き、よさなど）に関心をもち、基礎的な奏法（楽器の初歩的な演奏方法など）で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察】
	2	ねらい 箏の様々な奏法による音色の違いを味わう ○箏の基礎的な奏法を学ぶ。 ・箏の基礎的な奏法を知り、様々な奏法を試し、音色の違いを生徒同士の表現から感じ取らせる。 ・箏の音色や奏法に関心をもち、右手の奏法を体験する。 ○「さくら さくら」の副旋律（Ⅱ）伴奏（Ⅲ）を演奏する。 ・「さくら さくら」の主旋律を復習する。 ・「さくら さくら」の主旋律の動きや流れを感じながら、副旋律や伴奏の練習をする。	〔音楽表現の技能①〕 楽器の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能（奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて演奏している。【観察】
2 次	3 (本時)	ねらい 箏の音色や旋律の特徴を生かして「さくら さくら」を合奏する ○「さくら さくら」の旋律の特徴を考え合奏し、アンサンブルの工夫を考える。 ・和楽器でのアンサンブルで必要なことを考える。 ・主旋律の移り変わりを確認する。 ・一面を3人1組のグループで役割を決め練習する。 ・各声部の役割についてどのように演奏したらよいかを考え、意見を共有する。 ・3人1組のグループで、個々が考えた演奏方法を伝え合う。 ・演奏の仕方を工夫するために必要なポイントについてグループで考える。 ・発表に向けてグループ練習をする。 ・グループの工夫したい思いや意図に近づいているか、できた作品を鑑賞し、自己評価・相互評価する。	〔音楽への関心・意欲・態度②〕 声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）や全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【ワークシート・演奏】

		<p>〔音楽表現の 創意工夫②〕</p> <p>音楽を形づくっている要素（音色・リズム・旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
4	<p>ねらい 「さくら さくら」の曲想を味わいながら、基礎的な奏法を身に付けて、アンサンブルによる表現を工夫し発表する。</p> <p>○学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かして作品を仕上げる。</li> <li>・グループごとに発表し、聴きあう。</li> <li>・感想をワークシートに記入する。</li> </ul> <p>○「さくら変奏曲」を鑑賞し、響きを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞から感じたことを発表する。</li> <li>・箏曲の特徴とその背景となる文化や歴史について知る。</li> </ul>	<p>〔音楽表現の技能②〕</p> <p>声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能（奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて演奏している。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

## 7 本時の学習（3／4）

### （1）本時の目標

○箏の音色や旋律の特徴を生かして「さくら さくら」を合奏する

### （2）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法）
8分	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの約束事を確認する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 斜めに座って構える</li> <li>② 薬指を龍角にかけて支える。</li> <li>③ 弾いたら次の糸で止める。</li> </ol> </li> <li>・3人1組のグループで「さくら さくら」の主旋律を交互に演奏する。</li> <li>・箏を演奏していないときは、歌唱する。</li> </ul> <p>2 本時の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を確認する。</li> </ul>	<p>○歌詞の内容や箏の音色、旋律の特徴を理解し、基礎的な奏法を身に付けて演奏できるよう支援する。</p> <p>○教師の範奏により、基礎的な奏法を確認する。</p>
互いのパートの音をよく聴き合いながら合奏しよう		
3分	<p>3 和楽器での合奏をする上で、大切なことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸をそろえること</li> <li>・かけ声をかけること</li> <li>・相手の音をよく聴くこと</li> <li>・相手の動きをよく見ること</li> </ul>	<p>○今までの音楽活動で意識してきたことについて、具体的に振り返られるようにする。</p> <p>○和楽器の合奏DVDを視聴し、合奏をする上で大切なことに注目させる。</p> <p>○拍を打たなくても演奏できるようにすることを伝える。</p>
2分	<p>4 主旋律の移り変わりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律の移り変わりを楽譜上から確認する。</li> </ul>	<p>○拡大譜を用い、生徒の発表した内容を楽譜に書き込む。</p> <p>○生徒が使用する楽譜にも記入させる。</p>

<p>5分</p>	<p>5 各声部の役割や、どのように演奏したら良いかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で演奏の工夫について考えたことを付箋に書き、それぞれ貼り付ける。 〈工夫の観点〉</li> <li>・流れるようななめらかな主旋律にするには、どのように演奏したらよいか。</li> <li>・ユニゾンの演奏で気を付けることは何か。</li> <li>・かけ合いや伴奏パートの音量バランスや音色はどのようにするか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各声部の役割について理解を深めさせ、演奏に生かせるようテクスチャや楽曲の構成にも目を向けさせる。</li> <li>○教師の範奏により、演奏する際に気をつけるポイントに気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ [音楽への関心・意欲・態度②]</p> <p>声部の役割(音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など)や全体の響きに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート・演奏】</p> </div>
<p>17分</p>	<p>7 グループごとに合奏練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各声部の役割を生かした演奏の工夫について、個人の考えを持ち寄り、グループで共有しながら練習を進める。</li> <li>・主旋律、副旋律、伴奏の役割や響きについて工夫することについて、グループで意見をまとめる。</li> <li>・考えたことが表現できているか、お互いに聴き合いながら練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巡回し、箏の音色や旋律の特徴を生かした表現ができているか、基礎的な奏法で演奏できているか助言する。</li> <li>○演奏する上で、気をつけることを楽譜にメモさせる。</li> <li>○思うような音が出せなく困っている生徒には、教師が演奏で示して助言する。</li> <li>○お互いに演奏する側と聴く側になって、自分たちで考えたことが表現できているか、確かめ合いながら進めるよう助言する。</li> <li>○考えたことが表現できているか、聴き合って感じたことをメモさせる。</li> <li>○よく聴きあいながら音を重ねていく過程を繰り返すことを助言する。</li> <li>○タイミングが合わず困っている場合には、拍を取って合わせてよいことを伝える。</li> </ul>

		<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆ [音楽表現の創意工夫②]</p> <p>音楽を形づくっている要素 (音色・リズム・旋律) を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">【観察・ワークシート】</p> </div>
10分	<p>7 中間発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫した点について発表し、演奏する。</li> </ul>	<p>○他グループの発表から、自分たちの表現に生かせるところをメモしながら聴くよう助言する。</p>
5分	<p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を再確認し、学習カードに自己評価を記入する。</li> <li>・次時の予告を聞く。</li> </ul>	<p>○頑張った点、うまくいかなかった点、両面から記入するよう助言する。</p> <p>○次時の学習活動への意欲が高まるように助言する。</p>